

南部圏域における医療・介護連携に関する意見交換会について

地域包括ケア病床については、今後必要性が高まる一方、地域によって介護老人保健施設等との関係性や必要とされる機能は異なる。そこで、地域包括ケアシステム構築に向けて、現状や連携状況等を確認・共有したうえで、病床整備を進めるために、関係者で意見交換会を実施した。

【開催概要】

- 日時：令和元年 10 月 28 日（月）13 時 30 分～15 時 15 分
- 場所：川口市地域保健センター 機能訓練室
- 参加者：医師会 2 名、高度急性期病院 2 施設、回復期機能病床（地域包括ケア、回復期リハ、療養病床）を有する病院 11 施設、介護老人保健施設 4 施設、特別養護老人ホーム（推薦された施設）3 施設、在宅医療連携拠点センター 2 施設、病院整備計画応募病院 3 施設 合計：30 名

■内 容

○病院整備計画応募病院からの概要説明の後、意見交換を実施。

○主な意見

《高度急性期病院から》

- ・施設入居者においては、急変時の対応など事前に家族と方針を話し合う等の対応しておいてもらうことが望ましい。
- ・単身で身寄りやキーパーソン不在の患者の受入れ施設が少ない。

《回復期機能を有する病院から》

- ・かかりつけ医や急性期医療機関から送られてくる終末期の患者の対応に課題がある。
- ・自院のポストアキュート及び関連施設からの入院が多く、他院からの受け入れが十分にできていない。
- ・医療・介護連携を協議する場が必要。
- ・家族の意向や家族の連絡先など情報の共有が必要。

《介護老人施設等から》

- ・医療機関との情報共有が利用者、家族の不安軽減につながるため重要。
- ・在宅療養支援ベッドと違い、入院の可否判断は医療機関側にあるので、サブアキュートの受け入れがスムーズに進まないのではないか。
- ・老々介護、独居が進む中で、地域包括ケア病床が整備されることは有効である



《病床整備計画応募病院から》

- ・病院や施設等からの意見を受け止め、南部医療圏域における地域包括ケアシステム構築に向け取り組んでいく。
- ・今後も、機会を捉えて意見交換を行うなど医療・介護連携を深めていく。